

2018年度(平成30年度) 特定課題研究費研究報告書

| | | | | | | |
|---|--|-----|---|-----|----|------|
| 研究代表者 | 所属 | 一般科 | 職 | 准教授 | 氏名 | 海上順代 |
| 研究分担者 | 所属 | | 職 | | 氏名 | |
| | 所属 | | 職 | | 氏名 | |
| | 所属 | | 職 | | 氏名 | |
| 研究課題名 | (和文) ルーブリックを活用した英語指導の研究 | | | | | |
| | (英文) A Study of the Use of Scoring Rubrics in English Teaching | | | | | |
| 研究種目 | 教育課題研究 | | | | | |
| 研究実績の概要 | | | | | | |
| <p>平成29年度からシラバスにルーブリックを掲載することになり、活用例などの研究を行ってきた。研究する過程で、実際に担当するクラスで学生にルーブリックを意識させ理解を促すことが必要と考えるに至った。そこで、ルーブリックの意義をより理解し自己評価が的確に行えると考えられた本科5年の英語担当クラスで、ルーブリックを活用した。該当クラスの必修英語の授業は英文ライティングに比重を置く授業であった為、授業内で頻繁に英文作成の課題を課した。この課題やテキストの小テスト、定期試験の際に、各学生に自分の理解度を確認する為にルーブリックでどの段階に属するか選択・記入を求めた。徐々に評価が上がる学生が増え、授業内での取り組みや意識の変化にもつながっていると思われた。ルーブリック研究は今年度から始めた研究になるが、高学年の英文ライティング指導は継続的に数年間行っており、ルーブリック研究と合わせて効果的に進めることが出来た。</p> | | | | | | |
| 研究発表(論文、著書、講演等) | | | | | | |
| <p>教育ノート：(単著)「高専4年生を対象にしたTOEIC IP Test 対策に関する実践報告」『湘南英文学』(第13号)</p> <p>研究発表：(個人発表)「ルーブリックを活用した授業実践の報告 - 本科5年生の『総合英語V』における取組 - 」(全国高等専門学校英語教育学会平成30年8月)</p> | | | | | | |
| その他(教育活動・OPCへの貢献、特許等) | | | | | | |
| | | | | | | |